

出来町の船だんじり (出来町)



待ちわびて迎えた今年の秋、老いも若きも男も女も一様にTシャツ姿で町を闊歩した。

秋晴れの空に煙火が鳴り響く10月12日、出来町の蛭子神社で秋の例祭が行われた。絢爛豪華な船だんじりを引いて町中を練り歩く、一年でもっとも町が活気づく3日間の始まりだ。

出来町で生まれ育った人々は皆、「出来町の船だんじり(船名・神力丸)」が大好きだという。市の有形民俗文化財にも指定され、ここにしかないという誇りが神力丸への深い愛情を育んできた。

昨年の秋、青年団がそれまでなかった祭りの衣装を揃えようと、Tシャツ25枚と法被10着を作った。黒いTシャツの背面には「I♥神力丸」の金文字と大きなハートマークが踊る。「年配の方が多いので、かわいらしさを表現したかった。」



と中川未菜さん。漆塗りに金箔張りの豪華な装飾が施された神力丸と同じ配色でデザインした。

住民の評判も上々だ。今夏には60着ほどの注文があった。祭りに寄せる情熱と若者のアイデアが地域に一体感を生み出している。同じTシャツを着た老若男女が勇壮にだんじりを引き回しする様は、見物人の目に新鮮に映り、どこか誇らしげだ。青年団長の川上哲也さん(26歳)は語る。「神力丸は地域の宝。それを守る意識と地域のきずなが一層強くなったと感じています。」

早くから女の子を打ち子に登用するなど、少子化時代に即した祭りのスタイルを築き上げてきた出来町。今度はTシャツで新たなスタイルを作り出そうとしている。人がいて、船だんじりがあり、そこにまた人が集う。屈託のない笑顔が、秋の陽光にきらりと光った。

